

北星学園大学

後援会だより

VOL.115

発行日 2013年12月2日

発行者 北星学園大学

後援会事務局

札幌市厚別区大谷地西2

丁目3番1号 〒004-8631

電話(011)891-2731

印刷(社) 北海道リハビリ



父母懇談会報告

地区別

地区別父母懇談会が終了!

後援会の一大事業でもあります地区別父母懇談会が、今年も道内七ヶ所で行われ、十月二十六日に行われた第二回札幌地区をもちまして、無事終了いたしました。

今年度は、全会場合計で五〇〇組近くの申し込みがあり、前年度に引き続き多くの方々にご参加いただきました。全体会では大学の近況報告、修学関係についての説明があり、ご父母の皆様が強く関心をお持ちの就職状況について報告がありました。また、地方会場での個別懇談までの待ち時間では、ご父母同士での情報交換やご欲談できる良い機会となった他、就職支援課による個別相談にもご参加いただきました。参加されたご父母の皆様からは、成績・就職関係はもちろんのことですが、特にお子様が離れて暮らされている方にとっては、普段の学校生活について知る機会となり、大変参考になったという声が多くありました。父母懇談会では毎回アンケートの記入をお願いしておりますが、今年も多くのご感想や労いのお言葉をいただきました。その一部をご紹介します。アンケートの中にはご指摘やご要望などもあり、貴重なご意見として改善に努め、



全体会の様子(10月札幌)



個別懇談の様子(旭川)

「ご父母からの感想」

初めて出席致しました。日常的にあまり話す事が少なくなっていましたので、心配していた成績や授業出席状況について知る事が出来て良かったです。

(六月札幌)

毎年楽しみにしております。和やかなひと時と子どもの成績をしっかりと聞けて安心して帰ることが出来ます。

(八月函館)

参加して良かったと思います。一年生なので、親も大学の事がよくわからず、本人任せの事が多いです。二年生以降はしっかり見て、将来、就職等良い方向に進めるよう話してあげたいと思いました。

(八月苫小牧)

四年間お世話になりました。とても良い先生方で、充実した大学生活を過ごせたようです。ありが

とうございました。

(八月北見)

懇談会の参加も今回で最後となりますが、一年に一回直接先生方とお話をさせていただく機会がある事は、地方に住む親としては本当にありがたいと思います。

(九月旭川)

先生も話しやすく、先輩お母さんのお話ためになりました。来年も参加したいです。

(九月帯広)

直接先生方とお話ができて良かったです。勉強や資格取得についての先生方の意気込みが見え、就職相談についても、いろいろと教えてもらい、大変参考になりました。また来年も来たいと思う内容でした。

(九月釧路)

毎年参加させていただいています。昨年の懇談会で先生に話していたことを息子に伝えたとこ、意欲が出てきて、積極的に授業にも参加するようになりました。ありがとうございます。

(十月札幌)

就職支援のサポートが充実している事がわかったので、早いうちからの子どもの能力アップ、アピール方法を身に付けられるよう、親としても協力したいと思いました。

(十月札幌)



地方会場の様子(釧路)

卒業記念祝賀会のご案内

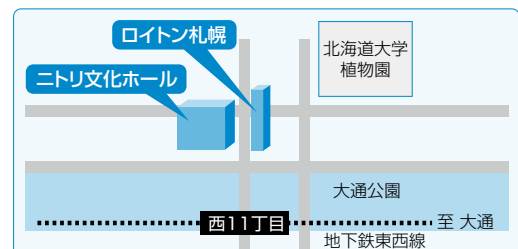
2013年度卒業式・卒業記念祝賀会が下記のとおり挙行されますので、ご案内いたします。ご父母の方も是非ご出席ください。

卒業式

日時：2014年3月14日(金)
全学部 13:00予定
場所：ニトリ文化ホール(旧さっぽろ芸術文化の館)
(札幌市中央区北1条西12丁目)

卒業記念祝賀会

日時：2014年3月14日(金)
全学部 16:30予定
場所：ホテルロイトン札幌
(札幌市中央区北1条西11丁目)



星学祭を終えて

第52回大学祭実行委員会

委員長

斉藤 陽香

今年度の星学祭も、関係者の方々の多大なご支援とご協力のおかげで無事終了することが出来ました。今年は一泊二日の突然の雨で餅まきを中止し、生協一階で餅とお菓子を配布しました。また、特技披露大会と、流石によるストリートダンスショーを急遽生協二階で行いました。予定変更に関しましてご来場の皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

しかし今年の星学祭は、例年以上に子どもからご年配の方まで、幅広い世代の方にご来場していただき、主催者側としては大変嬉しく思います。

今年度のスローガンは「秋ティングSTAR☆」でした。このスローガンに沿って、キラキラとしたお祭りになるよう、各種イベントや模擬店に一層力を注いでまいりました。その

甲斐もあり、模擬店や例年行っているよさこい、手話サークルによる劇、その他にも飛び入りで参加できるイベントなどにより、多くの方に喜んで頂けたと感じております。そして学生の積極的な協力も多く得られたことも嬉しく思います。

今年度の星学祭は、地域の方々や委託イベントに参加して頂いた各団体、そして学生支援課の皆さんの多大なご協力によって例年以上の盛大なうちに幕を閉じることができました。これに満足することなく、より一層の発展を目標に、また一から星学祭を築いていきたいと思っております。そして、第五十二回北星学園大学・北星学園大学短期大学部星学祭を開催するにあたり多大なご協力・ご援助して頂いた協賛主様や広告主様、各サークルの皆さん、学校関係者の方々にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、後援会から「北星学園大学のサポーター」として、ご協力いただいたことに、厚く御礼申し上げます。そして、今後皆様にとってよりよい思い出となるような星学祭にするために、私たち大学祭実行委員一同努力していきますので、来年度以降も皆様のご理解とご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。



経済学部
経済学科
江田 彩佳

内定先：札幌市役所

私は大学二年の冬に公務員を目指し、勉強を始めました。三年の六月からは学内公務員講座、翌年三月からは予備校の直前講座を受講してきました。ほとんど毎日試験勉強をしてきたので、辛いときもありました。しかし、これから先四十年ほど働く場所がこの一年ほどにかかっていると思うと自然とやる気が湧いてきました。

筆記試験に関しては勉強

就職活動におけるアド

バイスは以下の三つです。

「Take Action」「失敗を成功と捉える」「何故、と五回問



文学部
英文学科
菊池 恒輝

内定先：株式会社日本アークス

あるのみだと思ったので、講座は休まずに出席し、周りから遅れをとらないように、さらに「周りに差をつけてやる」という意気込みで勉強をしてきました。移動時間なども勉強時間に充て、少しでも学力を伸ばすよう努力をしていきました。

面接試験は近年公務員試験においても重要度は増してきているので、筆記が受かったからといって安心せずに、一次合格後すぐに面接対策に力を入れました。正直言うと私は面接が苦手でした。しかし、就職支援課はもちろん、ゼミの教授や予備校の先生などにも面接対策をしていただき、なんとか面接に対する苦手意識を克服することができました。

した。勉強だけでなく、面接も何度も繰り返し返すうちに上達していくことがだんだん楽しくなっていました。公務員試験を受けていくにあたって私が一番重要だと感じたのは、受かりたいという「熱意」だと思っています。熱意があれば勉強も頑張れるし、面接でも面接官にうまくアピールできるはず。ですから、どうしてもここに受かりたいという強い熱意を持って試験に臨めば必ずと結果はついてくると私は思います。

私はグランドスタッフになりたいという一心で就職活動を行ってきました。そのため、就職活動を行うにあたって面接練習をとにかくたくさんこなそうと決めました。今まで面接を受け



短期大学部
英文学科
泉 樹里

内定先：株式会社JALスカイ札幌

就職活動

体験談

全国的に厳しい就職状況が続く中、内定を手にした学生の体験談をご紹介します。これから就職活動を迎える皆様にとって貴重なアドバイスとなりますので、是非参考にしてみてください。

本日の原因を、シンプルかつ明確に捉える事ができます。自己分析や志望動機等、就職活動は自らに問う事が最も多くなる時期です。この方法を用いて、自らと真摯に向き合い、自分なりの答えを見つけて下さい。

就職活動は楽しいものです。胸に抱えた不安を脇に置いて、期待で胸をふくらませ下さい。



社会福祉学部
福祉計画学科
高野 達郎

内定先：社会福祉法人はるにれの里

たことがなかった私は面接会場に入るところからの練習。最初は本当に何もわからず、すごく不安でした。そして、私は人前で自分のことを話すのがとても苦手でした。

面接練習を行うにあたって、二つの壁にぶつかりました。

一つ目は、「面接なのだからキチンと上手く答えなければならぬ」と勝手に思い込んでいたということでした。私は面接ノートに「語一句丁寧に書き込んでいました。ですが、書いていることを話すだけでは相手には何も伝わらず棒読みになっていたのです。そこで質問されて思った事を答えるという練習を繰り返しました。その結果、予期していなかった。

周りには何カ月も前から就職活動を始め、福祉は就活が遅いということを頭の片隅に置きながらも、若干の焦りを感じていました。しかし入学時から福祉の現場で働くことを決めており、決意に揺らぎはありませんでした。

「内定へとつながった大学生活」――私は社会福祉士の資格を得るため、必要な科目を履修し、実習に行っていました。そのときの実習先が私の就職先でもありました。

た質問にスラスラ答えられるようになりまし。

二つ目は、面接練習をしていくうちに「自分自身を理解していなかった」と気付いたことです。私は自分とはどんな人なのかと考えるようになりまし。自分の事は自分が一番わかっていると思っていたが、そうではありませんでした。そして面接練習を重ねるうちに自分を知り、どんな話せるようになりまし。また、自分を知るという事で自分に自信を持てるようになりまし。

私が就職活動を通して学んだ事は自分と向き合う事がとても大切だということです。そして自分自身とても成長出来たと感じています。

これらの経験は就職活動をするうえで、履歴書作成や面接場面、筆記試験で役立ち、本番での自信につながりました。

「弱いけれど強い自分に」――最後になりますが、就職活動中は、時折周りが優秀に見える、自らが劣等感を抱くこともあるかと思いますが、たとえ自らが劣っているとしても、その事実が付き、向き合っていることがその人自身の強さであり、良さだと思っています。今劣っているならば、その先は良くなっていくだけです。また困った時は一人で悩まず、就職支援課や友達に相談すると良いと思います。一人では解決できないことは就職活動にはありますし、誰かに助けを得られる事も立派な強みだと思っています。

EASCOM

2013年度

東アジア学生交流プログラム報告

国際教育センター主催「東アジア学生交流プログラム（East Asia Student Communication Program）「EASCOM」が十月十九日から三十日まで開催されました。

このプログラムは、中国の大連外国語大学の学生を本学に招聘することから始まり、現在は韓国のカトリック大学校、台湾の東海大学の日本語学科等の学生たちを合わせ、三大学合計十五名をキャンパスに引き、本学の学生実行委員会がプログラムを企画して実施し、今回で十九回目を数えます。

プログラ

ムは、田村学長訪問に始まり、本学の授業見学やゼミとの交流、「各国の教育」をテーマとしたサミット（情報交換と研究会）、アジア舞台（地域紹介）、市内見学、地域小学校訪問、日本の昔遊び体



白老ポロトコタンにて

験、ヨサコイ体験などが企画され、また、恒例となつた「アジア屋台」ではチャイハンやホットク、水餃子など各国の料理やデザートが格安で販売され、学生や教職員の昼食に大好評でした。また、インターナショナルキャンプとして、本学に在籍中の交換留学生と一緒にニセコ・小樽方面に一泊二日で旅行し、小樽ではガラス工芸などの体験をしながら、各国の学生たちは交流を深めていました。そして、最後のプログラムとして、日本語スピーチ大会が行われ、日本語学科の学生はよく学習された日本語で感想が発表されました。

企画に際しましては、現在、東アジア各国間に政治的な懸案が多いなか、活発で友好的な学生交流がもつ意味は大きいと感じています。後援会からの多大なるご支援に感謝申し上げます。

学生支援課 川島 善孝

学会報告

「日本健康心理学会 第26回大会」開催 —病いを生きる健康心理学—

文学部教授 田辺 毅彦

ようやく暑さが治まってきた2013年9月7日から8日にかけて、北星学園大学のA・B両館において、日本健康心理学会第26回大会が開かれました。この学会は全国規模の学会ながら、これまで東京を中心に開催されることが多く、北海道は初めてということもあって、どの程度の会員が集まるのか、不安を抱く中で進行してきました。それでも最終的には、事前申し込みが290名、当日参加者が40名と300名を超え、当初の目標を達成することができ、担当者一同、胸をなでおろしました。

大会テーマは、健康心理学会ではこれまであまり取り上げられる機会が少なかった、がんや認知症などを始めとする治療がむずかしい病気を抱えながらも、豊かな人生を送る人々のQOLに注目し、健康心理学の新たな可能性について考える機会を提供したいと思い、「『病い』を生きる健康心理学」と題したテーマにさせていただきました。2日間にわたって、活発な発表や議論が行われ、参加された皆さんからも、刺激の多い充実した学会であったと喜んでいただき、スタッフ一同、とてもうれしく思いました。今回の大会が、健康心理学の再考へのきっかけになれば幸いです。そして、今回は私以外に、心理・応用コミュニケーション学科の教員2名（蓑内豊教授・大島寿美子教授）、福祉心理学科の教員2名（柴田利男教授・鴨澤あかね准教授）に、運営委員として、準備から当日までの業務に携わってご尽力いただき、各々の学科の3、4年生および院生併せて総勢20数名の学生の皆さんにも大活躍いただきました。特に、参加者への配慮あふれる本学の学生に対して、多くの方からご好評頂き、後援会のご支援も含めて、改めて心より感謝申し上げる次第です。特に、後援会からの助成があったおかげで、準備段階からどんなに心強かったかわかりません。本当に多くの皆さんのご協力のおかげで終了することができました。ありがとうございました。



「日本ペスタロッチャー・フレーベル学会 第31回大会」を終えて

文学部准教授 片岡 徹

9月14日から15日にかけて、北星学園大学を会場に「日本ペスタロッチャー・フレーベル学会 第31回大会」が開催されました。大会実行委員長に酒井玲子先生（学校法人北星学園理事長）、大会事務局長に私が就き、昨年より準備を進めて参りました。当日は台風の影響も心配されましたが、幸い天候も味方して素晴らしい大会となりました。この大会には、北星学園大学後援会より多大なるご支援を頂きました。大会実行委員会を代表し、心より謝意を表させていただきます。

日本ペスタロッチャー・フレーベル学会は、ペスタロッチャー及びフレーベルの教育遺産、並びにそれに関わる教育思想・教育制度・教育運動の研究と、ヒューマンリズムの教育精神の発展と普及を図ることを目的として、1982年（昭和57年）8月28日に設立されました。

第31回大会では会員による研究報告に加えて、会場校として「特別報告」と「公開シンポジウム」を企画しました。「特別報告」では『東日本大震災、被災者による報告』と題して、北星学園余市高校2年生の遠藤春奈さん、そしてかつては福島県内に勤務し、現在は道内の学校で勤務する2名の先生による報告がありました。なお、遠藤さんには報告の中で全国弁論大会で文部科学大臣杯奨励賞を受賞した弁論を発表して頂きました。また、「公開シンポジウム」では「幼児教育の本質を問う～保育の質と保育制度の方向性」と題して、札幌市内の幼稚園の園長、保育園の園長、並びに保育制度の研究者による報告があり、その後会場からの質疑応答を行いました。現在保育制度に関する政策の動向が大いに注目を浴びていることもあり、大変活発な議論が展開されていた様子が大変印象的でした。

最後になりますが、大会運営に当たっては、財務課、学生支援課、研究支援課の職員の方々にも大変お世話になると同時に、大会当日は心理・応用コミュニケーション学科の学生が受付業務など精力的に仕事をしてくれました。ここに心より感謝申し上げます。



「日本グループ・ダイナミクス学会 第60回大会」の開催について

社会福祉学部教授 今川 民雄

日本グループ・ダイナミクス学会第60回大会を、7月14日、15日の2日間にわたり、本学で開催いたしました。後援会からの御援助をいただき、また事務方からのご協力を得て、無事に終えることが出来たことを感謝いたします。

大会当日は好天に恵まれ、少し暑いくらいでしたが、本州から来られた会員の皆さんにとっては過ごしやすい気候を経験していただけたことも幸いです。大会では92件の発表、4件のワークショップ、1件のシンポジウムが行われ、最終的に170名の方に参加いただき、初の北海道での大会としては盛会のうちに終えることが出来ました。学会員の皆様のご協力のおかげと、これまた感謝しています。

懇親会も大変にぎわいました。100名以上の参加を得て、時間いっぱい話に花が咲きました。北海道ならではの飲食も堪能されたことと思います。学会発表では、写真にもありますように、口頭発表でもポスター発表でも、参加された皆さんが熱心な討議を時間ぎりぎりまで展開されておりました。「グループ・ダイナミクス：その成果とこれからの課題」と題する大会企画シンポジウムでは、唐沢かおり学会長（東京大学）をはじめ大坊郁夫元学会長（東京未来大学）、山口裕幸前学会長（九州大学）、結城雅樹教授（北海道大学）が、それぞれに濃密な内容の提言をくださり、充実した時間を持てたことでした。そして最後に、何人もの参加された先生方が、本学の学生諸君のホスピタリティをほめて下さっていたことを付け加えたいと思います。



「第39回全国英語教育学会 北海道研究大会」を終えて

短期大学部教授 竹村 雅史

夏季休業に入った、2013年8月10日（土）、11日（日）に、第39回全国英語教育学会北海道研究大会が本学を会場に開催されました。本学会は、全国の小・中・高・高専・大学の学校種を超えた教員が集い、英語教育研究の理論・実践を共有し合う全国9地区学会を母体にした連合体の学会であります。3年前から総務、財務、広報、学生支援、研究支援各課と会場、日程等の調整を進めてきました。C館取り壊し早々にも関わらず、大会期間中はご配慮を頂き、また、田村学長からの歓迎のご挨拶をはじめ、懇親会会場での生協のご協力のもと、盛会に無事大会を終えることができました。

当日参加190名を含め700名近い参加者で、第二言語習得の研究者として著名な白井恭弘ピッツバーグ大学教授の特別講演：「外国学習の科学-SLAの知見をいかに英語教育に生かすか-」では、図書館AB教室が満席となり、立ち見も出る盛況ぶりでした。自由研究発表206件、課題研究フォーラム4件、授業研究フォーラム2件、ワークショップ、大学院生フォーラム、ポスター発表、シンポジウム等多多彩なプログラムが2日間に渡って展開されました。特に北海道特別企画では、グローバルな人材育成を北海道から目指した通年型のイングリッシュキャンプが紹介され、意義深い大会になりました。

大会運営に当たっては、30名の短大部英文学科の学生を中心としたホスピタリティ授業の実践の場として、本州からの参加者に対してさわやかな「お・も・て・な・し」ができたのではないかと思います。道内外の大学関係者からもとても綺麗なキャンパスで気持ちよく開催、発表できたとの報告が反省会で聞かれました。

最後に本学会が多くの参加者を得、有意義に終了できたのも大学後援会のご支援を頂いたお陰であり、ここに深く感謝申し上げます。



全国大会出場報告

フットサル同好会

経済学部 経営情報学科三年

工藤 圭介

私たちフットサル同好会は、今年六月末日に開催された全日本大学フットサル



全国大会を決めた全道大会優勝後

選手権北海道予選に出場して優勝し、同年八月二十三日から二十五日にかけて大阪で行われた全国大会に北海道代表として出場しました。全国大会は、山口大学、地元大阪成蹊大学、福井大学とグループリーグを戦い、一分二敗で予選敗退となりました。しかし例年あとの一步の大会への切符を逃してきた私たちに、予選での全勝優勝、全国大会出場には非常に大きな

武田流中村派合気道部

経済学部 経営情報学科三年

澁谷 亮太

私たち武田流中村派合気道部は、今年の七月七日東京・国立霞ヶ丘競技場体育館で行われた第三十六回学生合気道選手権大会に出場しました。夏に行われる東京での大会出場は私自身昨年に引き続き二度目でしたが、今年の夏は全国的に見ても去年と比べられないほどの猛暑で、あまりの気温と湿度の高さに呼吸するたび体力が消耗されていくのを感じました。また、乱捕形式の試合において、北海道と東京では細かなルールや判定の仕方が違い、慣れない環境下に試合中の部員

の表情には不安が多く感じられました。今回の大会で北星合気道部は、応用自由形という演舞の部門において敢闘賞を受賞、個人の型試合、乱捕試合の部門においては、それぞれの部員が健闘しつづも受賞には至らない結果に終わってしまいました。現在は冬の十二月に東京で行われる全日本合気道選手権と北海道で行われる北海道連合納会に向け日々練習に励んでいます。こうして全国大会に出場できるのも、後援会の御支援があったからこそ



団体戦、大将の総合乱捕の様子

な意義がありました。

予選には出場チーム中最少人数で大会に臨み、決して十分な準備ができたわけではありませんでした。それでもこうして素晴らしい結果を残すことができたのは、一人一人が優勝を本気で目指し団結できたからです。全国大会では思うような結果が残せませんでした。が、全国との差を感じる一方で、通用する面も十分にありました。こうして肌で全国レベルを感じとれたことで次のステップにつなげていけると信じています。

今回の全国大会出場は後援会の皆様方のご支援のおかげです。来年また全国大会に出場し、今度は勝利を挙げられるように、これから日々努力して参りますので、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

北星学園大学からの報告

田口ランディ・向谷地生良 対談講演会開催される



左：向谷地さん、右：田口さん

去る九月十四日(土)、田口ランディさん(作家)と向谷地生良さん(ソーシャルワーカー)による対談講演会が開催されました。今回のテーマは「現代人の生き方や命について」ということで、お二人の体験をもとに様々なお話をいただきました。講演会後半は、質疑応答の時間となり、お越しいただいた方からたくさん意見が寄せられました。田口さんと向谷地さんが織りなす優しい時間に会場内はすっかり引き込まれていました。次年度も著名人をお招きしての講演会を企画しますので、是非皆さんお誘い合わせの上、ご参加いただけたらと思います。

オータムコンサート開催される

去る十月二十日(日)、野花南とユライ・ムベによるオータムコンサートが開催されました。嵯峨治彦さん、たなかさん(ユライ・ムベ)、慧奏さん・えまさん(ユライ・ムベ)の計四名にご出演いただき、素晴らしい演奏を披露していただきました。当日は約一六五名の聴衆があり、「四季」「beautiful star」「Amazing Grace」「風の砂漠の子守唄」などが順次演奏されました。馬頭琴と喉歌に加え、弓奏楽器や伝統楽器、朗読などのコラボレーションが会場内を大いに楽しませてくれました。コンサート後半には、お越しいただいた方に三行の詩を書いてもらい、その詩に合わせて即興演奏するというコーナーもあり、美しいハーモニーが広がりました。

チャペルコンサート開催のお知らせ

日時：十二月八日(日) 午後二時から
会場：本校チャペル(参加無料)
出演者：ムジカ・アンティカ・サッポロ代表 物部憲一(ヴァイオリン)、ほか8名
「古楽器によるバロック音楽の典雅な響き」と題して、チャペルコンサートを行います。ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバス・チェンバロが奏でる多彩な



左から慧奏さん、えまさん、たなかさん、嵯峨さん

衆があり、「四季」「beautiful star」「Amazing Grace」「風の砂漠の子守唄」などが順次演奏されました。馬頭琴と喉歌に加え、弓奏楽器や伝統楽器、朗読などのコラボレーションが会場内を大いに楽しませてくれました。コンサート後半には、お越しいただいた方に三行の詩を書いてもらい、その詩に合わせて即興演奏するというコーナーもあり、美しいハーモニーが広がりました。

スミス・ミッションセンターからのお知らせ

チャペル・クリスマスイベント 2013 【クリスマス礼拝(キャンドル・サービス)・祝会】

【礼 拝】

日 時：12月13日(金) 16:30~17:50

会 場：北星学園大学チャペル

奏 楽：米本悦子(オルガニスト)

演 奏：チャペル・クワイア、ハンドベル・クワイア、NSBC

【祝 会】

日 時：12月13日(金) 18:00~

会 場：大学会館3階東側ホール

内 容：チャペル・クワイア、NSBC、アカペラサークル ぼらりす。の演奏、ピニャタ割ゲーム 他

【クリスマス・チャペルコンサート】

日 時：12月17日(火) 12:10~

会 場：北星学園大学チャペル

演 奏：大平まゆみ(札幌コンサートマスター)

渡部大三郎(元札幌クラリネット奏者)

福田善亮(札幌首席トランペット奏者)

小杉 恵(札幌大谷大学・藤女子大学ピアノ講師)

曲 目：バーンスタイン：「ウェストサイド物語」より

アルチュニアン：トランペット協奏曲 他

【ハンドベル・クワイア クリスマス・チャペルコンサート】

日 時：12月21日(土) 14:00~

会 場：北星学園大学チャペル

演 奏：ハンドベル・クワイア(本学学生・OG)

ともに入場無料・申込不要です。
お問い合わせ：総務課 011-891-2731
(内線4146 担当：松本) まで

あとがき

街中のイルミネーションが冬の澄んだ空気によく映え、目を惹きつけてくれる季節となりました。まもなくクリスマスを迎えようとしています。六月から始まり、各地区で開催された地区別父母懇談会も全会場が無事に終了することができました。今年度は昨年に比べ多くの方々に参加いただき、各会場でご父母の皆様にお会いできましたこと、一同大変嬉しく思っております。今後多くの方にご参加いただき、よりご満足いただけるよう努めて参ります。

今年もあとわずかとなりました。寒さの厳しい時期でもありますが、風邪など引かぬようお体を大切に、皆様よいお年をお迎えください。

(後援会事務局 大野)

北星学園大学教育振興寄付金で芳名募金のご協力に深く感謝申し上げます。

2013年7月1日から10月31日まで

【寄付】

☆大学・短期大学部

(父母・同窓生・一般・教職員)

堀内 孝志 堀江 尚志 斉藤 洋一

金澤 弘明 垂水 俊理 三浦留美子

小野 一美 政永美由紀

Miyuki Kashiwabara Bryant

一般社団法人 日本社会福祉学会 佐藤 修子

音色をどうぞお楽しみください。

参加希望者は「十二月八日 物部憲一クリスマスコンサート参加希望」とお書きの上、氏名、連絡先電話番号、参加希望人数を明記し、ハガキまたは電話、FAX、Eメールでお申込ください。

★★★★★ お知らせ ★★★★★

前号(一四号)でチャペルコンサートをご案内しておりましたが、開催が十二月一日(日)午後三時から十二月八日(日)午後三時に変更となりました。開催日時が変更となり、ご迷惑をおかけしたことをお詫言申し上げます。

【お申し込み・お問い合わせ先】
〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3-1
北星学園大学総務課内
北星学園大学同窓会事務局 同窓会プロジェクト係
TEL 011-891-2731 FAX 011-892-6097
e-mail: dousoukai@hokusei.ac.jp

【お願い】 友人、知人の方もお誘いください。
なお、小さなお子さんの入場はご遠慮ください。